



## 室蘭工業大学地域共同研究開発センターニュースレター No.6

雑誌名	室蘭工業大学地域共同研究開発センターニュースレター
巻	6
発行年	1993-11
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10258/00009229">http://hdl.handle.net/10258/00009229</a>

## 第4回CRDセミナー

会場：本部会議室

日時：11月12日(金)13:00～15:30

総合テーマ：沿岸海洋環境制御

テーマⅠ：海域制御構造物について

萩原 運弘 客員教授

清水建設(株)主任研究員

(1947年生 愛媛大学土木工学科1970年卒、  
同修士土木工学専攻1972年卒)

工学博士(1990年大阪大学)

テーマⅡ：噴火湾の海水温度の

変動について

望月 定 教授

情報工学科

## 【研究紹介】

デジタルカラー製版における網点

(7ミレ)の振り角と形状に関する研究

機械システム工学科

三品 博達

ほんの数年前までは高度な技能からしか得られなかったきれいな色彩印刷物が、最近あまり高価でないプリンターでもそこそこの品質で得られるようになってきている。この陰に、カラーカブリをにらんだ、自然な色彩画像を表現するための技術の熾烈な凌ぎ合いが潜んでいる。

美しい色彩画像の形成には機械的性能の向上はもちろんであるが、画像表現のためのソフトの改良が出力画像の評価に大きく影響する。特に自然カラー画像を取り扱う機器では、発色材の紙への転移過程は制御の容易性からデジタル的に、形成画像は滑らかな7ミレ感覚を損なわないような工夫が必要となる。この両者のつなぎ目が調子表現のための網点設計であり、発色材特性、紙特性、転移特性等を含んだ複雑なプロセス解析の結果がこの設計段階で画像データに埋め込まれる。

網点設計は後段の印刷工程の複雑さから画像

## シンポジウム

会場：ホテルサンルート室蘭

日時：11月19日(金)10:00～16:50

【ジオフロント計画の問題点を探る】

—主として掘削工学的問題—

大深度地下空間構築技術の研究開発の概要

恵木 一昭氏

岩盤空洞の建設技術に関する課題と展望

青木 謙治氏

都市における地下掘削(NATM)の現状と課題

大塚 正幸氏

シールド機械の現状と今後の開発動向について

三谷 典夫氏

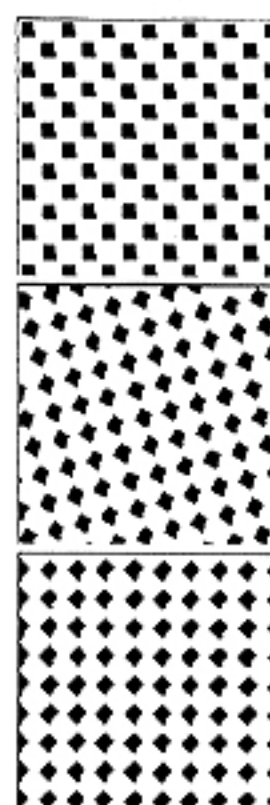
会費：一般 5,000円(講演要旨集含む)

学生 無料

主催：室蘭工業大学開発技術研究会

共催：資源・素材学会北海道支部

評価との繰り返しで試行錯誤的になされていた。後段の工程の制御変量をすべて繰り込んだ網点設計の論理的な手法開発にリョービ㈱と協力して取り組んでいる。



45° 網点

15° 網点

0° 網点

写真 横方向にレーザーが描いた種々の傾きの網点のフィルム出力シミュレーション例。同一面積率の想定であるが傾き角で網点形状が異なってしまう。

## 第6回大学企業技術交流会終える

産学官交流の場として10月15日午後2時より、ホテルサンルート室蘭を会場に講演会と懇親会が当センター主催で開催され、活発な意見交換、技術交流がなされました。

出席者は企業が63社90名、大学51名でした。

〔講演Ⅰ〕”企業から大学へ-私の国際体験-”

室蘭工業大学 国際交流室室長・教授

尾見 誠一氏

国際人の条件などについて講演し好奇心や適応力、道具として外国語力などの必要性を強調された。



〔講演Ⅱ〕”北海道宇宙基地開発構想”

北海道大学名誉教授、北海道工業大学前学長  
松本 正氏

北海道における航空宇宙関連実験の現状と将来展望の説明と、試験研究施設、航空宇宙関連産業の誘致などについて提言された。



松本 正氏

〔懇親会〕午後5時からの懇親の場においては、企業人と大学人との交流の輪を一層広げるとともに相互理解が深められた。



## ◇◇◇ えんまちょう ◇◇◇

「技術大国」日本の辺境（偏狭？）分野で研究している私は、科研費や奨学寄付金に縁がないので、海外の学者との交流のための渡航はすべて私費支弁となっている。ここ数年で、終の住処設備の頭金が霧散してしまった。

貧すれば貪るで考えたのは、教官研究旅費を国内だけでなく、海外渡航に使えないかとい

### 研究旅費の国際化を

うことだ。格安航空券ならば年間1回分位捻出できそうだ。

会計法上の問題はあるだろうが、研究旅費の国際化を切望する。

最近、学内文書まで国際規格のA4にして木材資源の5割増し浪費に貢献するというヘンな国際化が実現したので、国際化が急がれてよいものの一例を挙げてみた。

(Homo Galapagosiensis)

## 北海道科学・産業技術振

### 興財団設立について

（通称：ホクサイテック財団）

道内産学官の連携のもと英知を結集し、本道における基礎研究及びその応用研究を通じ本道の産業構造の高度化と道民生活の向上を図ることを目的として、7月1日設立発足いたしました。

本財団は産学官ネットワークの形成、研究開発支援、人材育成支援、産業化支援、国際交流支援の各事業に取り組むこととし、運用財産は今年度23億円、将来的には50億円（道40億円、民間10億円）を目標にしています。

なお、10月30日に設立記念事業として、筑波大学学長 江崎玲於奈博士による「創造の風土」と題する講演会を開催しました。

当財団の副理事長に本学の卒業生である中川修氏（昭和32年工化卒、前北海道出納長）が就任されており、当センターとしても、緊密な連携を保ちつつ、共に産業界の発展に貢献してまいりたいと考えています。

## 講演会

「北日本（北海道～東北）

交流軸構想について

～夢馳せる噴火湾横断・

水中トンネルと長大橋～」

日時：11月26日（金）14:00～

場所：蓬萊殿（Tel. 44-3338）

室蘭市宮の森1-1

主催：水中トンネル研究調査会

北海道開発技術センター

共催：CRDセンター 他